

特色
1

授業を考え抜いた 教科書

新学習指導要領では、資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業改善が示されました。本教科書は、先生と生徒が共に学びに向かう授業ができるような教科書を目指しました。

紙面には題材のねらいを丁寧に示し、先生が授業を組み立てやすいように配慮しました。

また、魅力的な図版や制作過程などを紹介し、生徒が主体的に取り組めるようにしました。

たくさんの授業取材や著作者との検討を重ねて設定した豊富な題材を、
系統立てて設定することにより3年間かけて美術の学びを積み上げられる構成にしました。

授業で使いやすい紙面構成・・・p.10

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて・・・p.12

3分冊で深まる学び・・・p.14

新学習指導要領に基づいた題材配列と系統性・・・p.16

※生徒が感じ考える時間や先生からの問いかけを
設けることで、鑑賞の学びを深める授業の一例です。

授業で
使いやすい
紙面構成

多彩な作品を掲載し、テキストを充実させることによって、内容がつかみやすく多様な授業展開を考えられる紙面構成にしました。先生にとっては授業がしやすく、生徒にとっても学びが見えるように配慮しました。

活動や目的を示す
「サブタイトル」

生徒の意欲を引き出す
「メインタイトル」

授業の導入で使える
問いかけ型の「主文」

三つの柱に基づく「学びの目標」

全ての題材ページに、育成すべき資質・能力の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に基づいた学びの目標を生徒向けの言葉で設定いたしました。学習途中や、振り返り、まとめ活動の評価の観点としてもご活用いただけます。

⇒「三つの柱との対応」は12ページをご覧ください

あなたなりの視点で描く
なぜか
気になる情景

あなたは、通学路や家などの見慣れた情景の中で、なぜか気になる心ひかれるような場所や、ものに出会ったことはないでしょうか。何気ないものでも、形や色彩、全体の様子などに着目すると何かに見えてきたり、もののつづやきが聞こえてくるようなイメージが生まれたりします。あなたの視点で見つけた情景を、表現方法を工夫して表してみましょう。



【学びの目標】
● 形や色彩、全体の様子などに着目し、そこから生じるイメージをとらえ、絵の具の使い方を工夫して表す。
● 身近な場所のイメージなどをもとに、形や色彩、構図などの工夫を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。
● 気になる場所を見つけ、その特徴をとらえて表すことに関心を持ち、意欲的に取り組む。



造形的な視点
作者の表したいことと、構図や色の使い方に着目してみよう。

生徒作品 新しい世界へ
「出られた！長かった！」みぞの中から葉っぱが斜めに向かって生き生きと生えていて、その力強さや美しさを表現したいと思いました。

〔共通事項〕への気づきを促す
「造形的な視点」

図版を指した具体的な問いかけで、造形的な見方を身に付けるためのヒントを提示しています。造形的な視点と、学びの目標の「知識及び技能」には双方に〔共通事項〕の内容が含まれます。関連付けて学習することで、より深い学びにつながるように配慮しました。



セーヌ川に面した開いた窓、ヴェルノンにて
[油彩・キャンバス/74×113cm] 1911ころ
ジュール・シェレ美術館コース蔵【フランス】
ビエール・ボナール【フランス・1867～1947】



生徒作品 スロープの先 [アクリル・紙/38×54cm]
スロープの先は、いつも待ち合わせをする場所です。手前の木は庭師の方が手入れをされていて温かみを感じる形です。
参照 P.62「遠近感を表す」



生徒作品 焼却所 [アクリル・紙/54×38cm]
使い古されて風化した感じや、形も面白いと思いました。背景は明るく焼却所は暗いという見た時の印象を表現しました。



雨 [紙本着色/108.7×86.5cm] 1953
東京国立近代美術館蔵 福田平八郎【大分県・1892～1974】
屋根瓦に落ちては消えていく雨粒を生き物の足跡のように感じた作者の視点が、色彩の重なりから伝わってくる。

振り返り・
評価について

学びの目標に照らし合わせながら活動を振り返ることで、学んだことや身に付いた力を確認することができます。評価については、学びの目標のほか、指導書に掲載される評価の観点を、ご活用いただけます。

知識及び技能の習得と鑑賞の視点を広げる
「作品解説」

多様で多感な生徒の発想や構想に関する資質・能力や、鑑賞に関する資質・能力の育成をサポートできるように作品解説を充実させました。

学びを深める手助けになる
「作者の言葉」

題材と関連した学習内容につながる「参照マーク」参照

多数の生徒作品と情景写真

表現や鑑賞の参考例となる生徒作品を多く取り上げました。また、活動のイメージが湧く情景写真も多く掲載し、生徒の主体性を育めるようにしました。

表現と鑑賞が一体的に学習できるよう、配慮しました

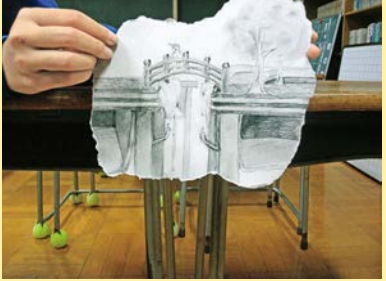
新学習指導要領では指導計画の作成に当たって、発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを、総合的に働かせて学習を深めるようにすることが示されました。学びの目標などの文章の工夫や、マークをインデックスに配置することで、表現活動にも鑑賞が含まれていることが分かり、相互の関連を図った授業展開ができるように配慮しました。

表現
鑑賞

表現と鑑賞が相互に関連していることを表わすマークをインデックスに配置しています。

短時間題材を掲載しています

1～2時間程度で実践できる短時間題材を掲載し、生徒の実態や年間指導計画に合わせた多彩な授業を行えるように配慮しました。



2・3下p.12-13「空想は現実を超えて」

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

本教科書は、生徒が学習内容を理解して、育成すべき資質・能力を身に付けることができるように、主体的・対話的で深い学びのための手立てを紙面に取り入れました。また、学習の基盤となる言語能力などの資質・能力の育成にも配慮しました。

「何を学び」「何ができるようになるか」を分かりやすく整理しました

生徒が主体的に学習に取り組めるように、学びの目標や学習内容をイメージできるサブタイトルを掲載し、学びが見えやすい紙面構成にしました。また、全ての題材の共通した場所に、分野と領域が一目で分かるインデックスを配置することで、機能的に使える基本設計にしました。

彫刻など
絵や
表現
鑑賞

あなたなりの視点で描く
**なぜか
気になる情景**

[学びの目標]
形や色彩、全体の様子などに着目し、そこから生じるイメージをとらえ、絵の具の使い方を工夫して表す。
身近な場所のイメージなどをもとに、形や色彩、構図などの工夫を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。
気になる場所を見つけ、その特徴をとらえて表すことに興味を持ち、意欲的に取り組む。

1p.16-17「なぜか気になる情景」

分野を示すインデックス

授業で活用しやすいように「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の分野を示しています。

表現と鑑賞マークで領域を明確に

発想や構想と鑑賞の資質・能力を総合的に働かせられるように、表現と鑑賞が相互に関連していることをマークで表しました。美術作品や美術文化に関する鑑賞領域では、鑑賞マークのみの表示となっています。

美術科ならではの見方を育む「造形的な視点」

教科目標にもある造形的な見方・考え方を捉える要素として題材の中心発問を新たに設けました。対象図版を指した具体的な問いかけにより、生徒が主体的に考えて活動に取り組み、他者との対話や学びを深めるきっかけになります。

造形的な視点
作者の表したいことと、構図や色の使い方に着目してみよう。

造形的な視点
視点を変えることにより、どのように印象が変わるだろうか。

造形的な視点
それぞれの染めの魅力は、どのようなところだろうか。

1p.16-17「なぜか気になる情景」 2・3上p.12-13「視点の冒険」 2・3下p.36-37「私の色 みんなの色」

問題発見・解決能力の育成に配慮しました

デザインや工芸などの分野では、美術の学びの中でも特に他者意識が起点となる題材を多く設定しています。制作過程で問題を発見し、試行錯誤しながら解決する力を付けることは、プログラミング的思考にもつながります。

道をデザインしよう

①身近にある道を観察する
住んでいる地域の道がどのようにデザインされているか観察する。

②アイデアスケッチをつくる
つくりたい道を具体的にイメージしながら、アイデアスケッチを作成する。

③模型を制作する
アイデアスケッチをもとに、道のデザインの模型を作成する。

④お互いに発表する
制作意図やデザインで工夫したポイントなどを発表し合う。

2・3下p.44-45「人が生きる社会と未来」

言語能力の育成に配慮しました

発想や構想の際に、感じたことや考えたことを言語化するためにアイデアスケッチなどを活用する事例を紹介しています。また、作品などを鑑賞する際には、他者との対話を通して見方・考え方を広げる活動を紹介しています。



1p.16-17「なぜか気になる情景」

情報活用能力の育成に配慮しました

表現や鑑賞の活動の中で、動画を編集する技法の説明やVR（ヴァーチャル・リアリティ）の鑑賞などの事例を紹介し、情報機器の活用を通して情報活用能力の育成を図るようにしました。



2・3下p.57「動画をつくる」

学びを支える資料

学習に必要な補足情報を技法・色彩・鑑賞に分類して活動に役立てるように示しています。

学びを支える資料 技法

学びを支える資料 色彩

学びを支える資料 鑑賞

➡「学びを支える資料の詳しい内容」は30ページをご覧ください

3分冊で深まる学び 3年間の発達の段階に即した題材設定

美術① 美術との出会い

「図画工作」から「美術」へと教科名が変わる中学1年生では、美術の楽しさや心を豊かにしてくれる世界を体験していきます。身の回りにあるものを形や色彩の視点から見つめ直すことで、新しい発見やイメージが広がることに気付きます。これまでにない見方や感じ方と出会いながら、自分らしさが形づくられていきます。

1年生ならではの題材例



1p.16-17

主題を生み出しやすい身近な対象

- 「主体的な学び」につなげるため、自ら主題を生み出しやすい身近なものや風景を扱う題材を設定しています。
- 発想のきっかけづくりに役立つ活動例を、情景写真やスケッチと併せて掲載しました。
 - 作者の言葉や作品解説で作者の工夫や見方を知ること、自身の作品の構想を深める手立てになります。

➡「主題を生み出す詳しい工夫」は20ページをご覧ください

美術② 学びの実感と広がり

中学2年生では、作品への理解を深め、試行錯誤によって学びを実感することを目指します。幅広いジャンルの作品に触れながら、作者の意図や技法、表現の可能性について学びます。それまでの価値観が揺さぶられ、物事の本質を見いだそうとする姿勢が養われていきます。

2年生ならではの題材例



2・3上p.32-33

生活に息づく伝統工芸への理解

- 受け継がれる伝統工芸を、つくり手や使い手の視点から鑑賞し、継承と創造の気持ちが持てる題材を設定しています。
- 参照マークで、2・3下掲載の染色を扱う題材と関連を図ることで、自身の表現活動にも生かすことができます。
 - 生活の中の美術文化との関わり方や、キャリア教育の視点を育むことにもつながります。

➡「他教科や、地域社会との関連」は34ページをご覧ください

美術③ 学びの探求と未来

中学3年生では、自己を掘り下げ、新しい価値を生み出していくことに挑戦します。さらに社会や環境の問題へと視野を広げ、美術の力で貢献する方法を学びます。自分の将来を見つめる時期、多様な価値観の存在を理解し、創造的な未来の在り方を探ります。

3年生ならではの題材例



2・3下p.44-45

課題解決型の学習で、 社会に生きるデザインを考える

- 学びを深められる中学3年生にふさわしい、社会や環境に関わることをねらいとした題材を設定しています。
- 美術の働きが、どのように社会に生かされるのかを考えられる題材設定にしました。
 - 制作過程で、他者との対話による言語能力や、調査を行う情報活用能力、問題発見・解決能力を育むことができます。

➡「社会的な課題との関連」は40ページをご覧ください

➡「教科書構成一覧」は48ページをご覧ください

中学2年生と3年生の違いが意識できる構成です。

美術科は、心の成長や知的な理解力の深まりとともに学びが変容していく教科です。中学2年生と3年生では成長の度合いに違いがあり、新学習指導要領にも「第2学年と第3学年の発達の特性を考慮して内容の選択や、一題材に充てる時間数などについて十分検討すること」が新たに記載されました。本教科書は、発達の段階に即した3分冊構成で、各学年に応じた学習指導を行っているように編集しています。



代表著者
むらかみひさのり
村上尚徳 先生
(IPU・環太平洋大学教授・副学長)

新学習指導要領に
基づいた
題材配列と系統性

小学校図画工作から
中学校美術へ

図画工作では体全体で感じ、考え、何度も試しながら新しい意味や価値をつくり出しました。その経験と培われた感性、資質・能力が中学校美術科の基となります。

